

龍宮物語でいじめを考える

23日、区立堀之内小学校（堀ノ内3-24-11）では、浦島太郎を題材にした舞台「龍宮ものがたり」が行われ、全校児童や保護者など500名ほどが鑑賞しました。この公演は、区内に事務所を置く芸能プロダクション「To HavE エンターテイメント」が、所属の俳優や俳優仲間を集めて行ったボランティア活動で、この日のために半年をかけて準備をしてきました。この舞台は、子どもたちにいじめや差別、さらに環境問題についても考えるきっかけとなることを目的にしています。

「To HavE エンターテイメント」の柘植里可子さんは、堀之内小学校の卒業生です。また、現在も堀之内小学校の学区域に居住しています。その柘植さんが、新聞やテレビで子どもたちの間でいじめの延長から、命を落とすような不幸な事件が起きていることから、自分たちにも何かできないかと考えました。柘植さんが、事務所の俳優やスタッフに相談すると、みんなが協力を約束しました。

今年3月、柘植さんが縁の深い堀之内小学校に、いじめなどを題材にした舞台をしたいと申し出ると学校も快諾。この日の舞台が決まりました。いじめをなくすもので、子どもたちが受け入れやすいものとして、浦島太郎が真っ先に決定。8月に台本が出来上がり、所属の俳優や俳優仲間も参加し週2回程度の練習を重ねてきました。

23日午前9時、4年生～6年生が見守る中、1回目の舞台公演が始まりました。現代版の浦島太郎では、主人公の名前が二郎になりました。ある日、会社員の二郎が海岸を歩いていると、1匹の亀が子どもたちにいじめられています。この亀を助けて、龍宮城に招かれます。すると、その海の中でも姫たちから魚が差別を受けていたり、魚同士でも色が地味なクロダイがいじめられています。どこの世界でもちょっとした違いが、いじめや差別につながることを伝えようとしています。さらに、クロダイは二郎と親しく話をしたことが問題にされました。人間は、魚を食べてしまう。海を汚す、いわば魚の敵だからです。でも、相手を知って思いやりを持つことで、世の中は変わるのだと言うことを子どもたちへのメッセージにしています。

舞台が終わると会場からは、大きな拍手が巻き起こりました。柘植さんは、「この舞台は、この日のために作ったものですが、多くの子どものために見てもらいたい」と話していました。



【報道機関問い合わせ先】

To HavE エンターテイメント TEL : 6913-2281